

令和元年度第1回千葉市史編さん会議議事録

1 日 時：令和元年12月13日（金） 午後1時30分～3時30分

2 場 所：千葉市立郷土博物館 講座室

3 出席者：（委員）

吉田会長、本郷副会長、天野委員、今井委員、佐野委員
（千葉市史編集委員会代表）

池田委員長

（事務局）

滝田文化財課長、児玉課長補佐、西田主査、
朝生郷土博物館長、芦田副館長、錦織主査、土屋主任主事、
外山総括主任研究員、白井研究員、大関研究員、笹川研究員

4 議 題

- (1) 千葉市史史料編近現代の進捗状況について
- (2) 令和元年度事業中間報告について
- (3) その他

5 議事の概要

- (1) 千葉市史史料編近現代の進捗状況について
千葉市史史料編近現代の進捗状況について、第1巻の構成案や選定史料を説明し、今後の編集方法などを確認した。
- (2) 令和元年度事業中間報告について
令和元年度事業中間報告について説明した。史料調査・収集・整理事業、普及事業などについて意見が出された。
- (3) その他
メディアの活用について意見が出された。

6 会議経過

午後1時30分、委員5人中5人着席。

司会（錦織主査）より、千葉市史編さん会議設置条例第5条第2項の規定により、会議が成立する旨が告げられ開会。資料の確認、事務局及び委員の紹介、滝田文化財課長からの挨拶を行った。

その後、設置条例第4条第2項の規定により、委員の互選で、吉田委員が千葉市史編さん会議会長に、本郷委員が副会長に選出された。吉田会長及び本郷副会長の挨拶に続いて、設置条例第5条第1項の規定により、会長が議長となって議事に入った。

議題1 千葉市史史料編近現代の進捗状況について

千葉市史史料編近現代の進捗状況について、第1巻の構成案、選定史料ほか編集状況について芦田副館長が説明。さらに、池田編委員長より、現時点で第1巻の原典校合と史料解説の執筆を行っている旨の説明があった。

<質疑応答>

吉田会長：では、議題1について、ご意見・ご質問があればお願いしたい。構成案の変更については、建築関係の章節を反映させた形だと思うが、内容を説明してほしい。

池田委員長：掲載予定の建築関係史料については、千葉県庁舎と県立千葉病院の建築仕様書が中心となる。県立千葉病院は図面も掲載する予定である。史料選定の担当者には、できるだけわかりやすく史料解説を書いてもらうようお願いしている。

吉田会長：建物自体の仕様書や図面だけではなく、建物が建築される際の社会の受け止め方などの関係史料も多くあると思うが、それらの史料は掲載しないのか。

池田委員長：第1巻ではそうした史料は掲載しないが、第2巻で軍事施設の問題について周辺資料も含め掲載する予定である。第1巻の掲載史料は、明治期に大工をしていた家に残されたものである。県庁舎は明治初期に建てられた最初の庁舎で、写真では残っていたが実態が不明だった。そうした仕様書なので、ぜひ掲載したいと考えている。

天野委員：明治44年竣工のルネッサンス様式よりも前の庁舎があったのか。

池田委員長：明治6年に千葉町に県庁舎が置かれ、当初は仮庁舎が使われていたが、この仮庁舎が火災で焼失し、明治7年に改めて建てられたものである。

今井委員：菊間藩からの材料を使用したという話がある。

池田委員長：明治7年に建築された最初の本格的なもので、かなり細かい仕様書である。新しい技術も取り入れている。

天野委員：県庁舎というと、ほとんどの方々がルネッサンス様式の庁舎を思い浮かべるので、大変興味深い史料である。

吉田会長：関係の古写真などはないのか。

池田委員長：県庁舎に関しては、正面からのものが数枚あったと思う。

吉田会長：第1巻では掲載しないのか。

池田委員長：史料解説などに掲載してもよいと思う。県庁舎は表門の立面図も残っている。

天野委員：ルネッサンス様式の県庁舎はどこで取り上げる予定なのか。

池田委員長：第2巻だと思う。建築は明治44年であるが、取り壊した際の問題もある。

今井委員：明治44年頃なので、第2巻がいいと思う。

池田委員長：どのように掲載するのかは改めて考えたい。

天野委員：第4編「地域社会の状況」について、第2章「野と水の近代化」は非常に面白いと思う。一方で、第1章の部分はどちらかと言えば、町場の近代化というイメージだと思う。火災の話など「世相」に見える。

池田委員長：第4編第1章第2節では、「偵察録」という軍事的な立場から町村を調査した資料を掲載する。また、第1章のタイトルは担当の選定者が現在検討中である。

吉田会長：前回の構成案で「野と水の近代」は別の編にあったが、第4編の「地域社会の状況」に入った経緯は何か。

池田委員長：担当の選定者によれば、「野と水の近代」は第2編・第3編の両方に重なるテーマであるので、まとめて独立した編で掲載したいということ、さらに千葉市域の近代化の特徴的に示した良い事例ということで、第4編に入った。

天野委員：第3編第4章「千葉町の近代建築」はむしろ第4編ではないかと思う。第3編は教育のあり方や衛生行政など、仕組み的なものを取り上げているように思うが、建物はどちらかと言えば町が変化していく中で建てられていくというイメージである。第4編は「地域社会の状況」という大きなタイトルであるが、千葉町も県庁所在地になって景観も含め大きく変わっていく。野も変わっていくというイメージである。

池田委員長：第3編は制度的な問題ではなく、むしろ地域社会の実態を示す史料を取り上げています。各々の章節テーマについて、地域における状況を示している。

天野委員：近代建築が第3編に入ってもバランスとしてはおかしくないということか。

池田委員長：少々特異ではあるが、建築史の立場で歴史をみるとおかしくはない。

吉田会長：地域社会をどのように考えているのかが、この構成案では曖昧だと思う。

「地域社会の状況」といったときの「地域社会」とは何を指すのか。近世から近代になって、急に地域社会の実態が変化するわけではないので、近世の旧町村を基盤としたものが地域社会だと考えている。

このように論点別で構成し、最後の第4編で「地域社会の状況」が急に出てくると、据わりが良くない。第4編第1章は結構ランダムなテーマであるし、第2章「野と水の近代」は、近世の旧町村とは別に影響して出てきたものなので、「地域社会」ではないのではないかと思う。

池田委員長：この点は近現代史部会でもいろいろと議論になった。ご指摘の点は重々理解できるが、このような形で担当の選定者の了解も得ている。

吉田会長：掲載史料の抱え方の問題だが、『史料編近世』は方針として、白文で句読点も打たなかった。掲載史料を読解するのであれば勉強しなければならなかったが、それは正しい方法だったと思う。逆に、ある史料集は読み下し文を載せてしまっている。これでは元の史料がどういう形式なのか全くわからない。ひとつの工夫ではあるが、白文を掲載してもよいと思う。

池田委員長：読点は、史料選定者の判断によるが、一つの区切りとして付けるようにしている。また、文字の表記は、近現代史部会でも議論した。常用漢字に置き換えていいのかどうかという文字の表記や、市民にとって読みにくい文字の表記をどこまで掲載していいのかわかることである。あまり現代の表記ににしても問題はありますが、市民に活用してもらいたいことを考えると、少し読みやすくした方がいいと思う。

吉田会長：読点ひとつで意味が変わることもある。

池田委員長：あまり読点はたくさんつけない。比較的読みやすくする程度である。

吉田会長：他に何かあるか。なければ、議題2に移る。

議題2 令和元年度事業中間報告について

令和元年度事業中間報告について、5つの項目に分けて、芦田副館長が説明。

<質疑応答>

吉田会長：議題2は多岐にわたるので、まずは史料調査・収集・整理事業から入りたい。

寄贈・寄託の予定が数件あるようだが、収蔵庫のスペースは大丈夫なのか。

事務局（芦田）：以前にご覧いただいとおりであるが、市域に関連する史料は、このまま散逸してしまうという懸念がある以上、可能な限り収集しておきたいと思っている。

吉田会長：かなり以前から満杯状態だったと思う。

事務局（芦田）：文書史料はそれほど嵩を取らないので、収納は可能ではある。

吉田会長：史料調査・収集・整理事業は、市史編さん事業の中でも非常に基本的な業務であるが、本来は文書館的な業務である。市史編さん事業でずっと代替してきているという状況を、教育委員会でも認識してほしい。現状では利用者が自由に閲覧することができないので、その辺りの見通しを付けてほしいと思う。

続いて刊行事業・普及事業・研究事業などはどうか。今年度の市史研究講座は基本的に近世分野が無かったということか。

事務局（土屋）：幕末から明治期の内容であるが、講師には近世分野でお願いした。

吉田会長：ノリ養殖の内容は近現代分野なのか。

事務局（土屋）：近現代分野の中でも戦後の内容である。

今井委員：近世・近現代の古文書類のみならず、民具史料の収集保存についてはどうか。

博物館として考えると、その辺りも非常に懸案される。農業や漁業関係の道具、農業生産に関わる史料が、学校で保存している時代もあったが、現在は学校でも保存状態がわからないと聞いている。

市史編さんの事業では、民俗や民具に関する史料編の編さん目標がないと、収集保存するという事はできないが、何らかの方法が取れないものかと思う。

事務局（朝生）：市史編さん事業のあり方も含め、博物館事業全体の整理を少しずつ始めているところである。市史編さんの事業で成果物を刊行していくことは大事な事業であるが、史料の調査・収集・整理、研究については、本来の博物館業務として、郷土の総合的な歴史博物館として本来は一番基軸となる事業であると考えている。

その中で、収蔵庫スペース確保のことも検討しているし、建物自体のあり方も検討を開始している。博物館機能を高め、その中で史料の調査・収集・整理、研究に十分注力できるような体制と環境を整備していこうと動き始めているところである。また、アウトリーチ活動も含め、市民とできるだけ交流を深めながら、博物館事業を進めていく方向で展開していくことを考えている。

吉田会長：史料収集・調査・整理、研究には、市史編さん事業で寄贈・寄託を受けた古文書類も含まれるのか。そうすると、文書館的な機能も博物館が担っていくような構図になっていくと思うが。

事務局（朝生）：文書館が設置されていないので、公文書を含めた文書の保管などをどの部署が責任を持って行っていくのかについて、問題提起をしながら検討している。

事務局（滝田）：他の政令指定都市の状況をみても、教育委員会で市史編さん事業を所管している都市が少ない。首長部局に文書館があり、そこで市史編さん事業を本格的に進めているところも多数ある。その辺りを参考にしながら郷土博物館のあり方を考えていかなければならないので、検討していきたい。

天野委員：近現代史は写真が必要不可欠になってくる。具体的に目で見えるものが多く残ってくる時代になる。『千葉市教育史』でも別冊で写真編がある。これは非常に面白くて、写真編だけ見ても楽しいものである。写真は史料だと思うので、写真の史料編も別冊にあると、いいものになると思う。

吉田会長：他に何もなければ、議題3に移る。

議題3 その他

<質疑応答>

吉田会長：千葉日報に市史編さん事業に関わる記事を連載企画のような形で掲載したい旨を正式に申し入れたらどうかという提案をしたが、その後どうか。

事務局（朝生）：千葉日報社を訪問したところ、先方でもその辺りを十分意識してくださっているのので、調整している段階である。

吉田会長：ぜひ具体的に検討してほしい。

本郷副会長：いろいろ媒体はあると思うので、できるだけ効果的に組み合わせてはどうか。それぞれ違う媒体でPRしているのではなく、効果的に市民に伝わるように、上手に連携を図って活用していただければと思う。

池田委員長：近現代の史料編については、再スタートして刊行されることになった点は大きな進歩であるが、当初計画よりも頁数が縮小されたため、やむを得ず削除せざるを得ない史料、あるいは抄録で掲載する史料がある。

一方で、史料の調査・収集・整理に関しては、同時並行で積極的に行われている。いずれは、近現代だけでなく他の時代も含め、簡易な史料集を継続的に刊行することも考えてほしい。本来は文書館のように、市民が収集した史料を容易に閲覧できる方がよいが、それが難しいのであれば、できるだけ市民が手に取れるようなものを刊行できるようにしてほしい。

吉田会長：近現代の史料編刊行後の事業戦略に関わる問題だと思う。

佐野委員：メディアの活用については、弊社でも過去を振り返り、昔のことで取り上げていくことも新聞社の使命だと思っている。紙面のみならず、いろいろなメディア媒体を用意している。

吉田会長：刊行物も含め協力関係ができるとよい。

佐野委員：刊行物を作成するにはどうしても予算が必要になってくる。千葉市だけが負担するのではなく、いろいろな方法で予算は工面できる。例えばクラウドファンディングのような仕組みもある。調整しなければならない点は多くあるが、市史編さん事業も何かしら活用できる部分があると思うので、できることは協力させていただきたい。

天野委員：千葉市の歴史を知ることができる適当な冊子がないという話はどこでも聞く。

『千葉市史』とパンフレットの間を繋ぐようなものがほしい。そうしたものを刊行できれば、千葉市を誇りに思える市民が増えるのではないかと思う。

吉田会長：他に何かあるか。

事務局（朝生）：連絡事項として、次回の千葉市史編さん会議を令和2年3月上旬頃で調整したい。また、通史研究全般を扱う博物館として市史編さん事業も発展させなければならぬので、新年度から予算も若干柔軟に執行できるようにしていきたい。

吉田会長：市史編さん事業の今後を話せる場を設けてもいいのではないか。

事務局（朝生）：有機的に進めていく必要があるので、そうした話をする場を設けていきたい。

吉田会長：場合によっては話題提供的なものを2つほど準備して、ワークショップのような形にしてはどうか。

朝生館長：検討して改めてご連絡したい。

吉田会長：特に何もなければ、以上をもって、議事を終了する。

司会（錦織主査）の進行により、令和元年度第1回千葉市史編さん会議を終了する。

問い合わせ先 千葉市立郷土博物館市史編さん担当
TEL 043-222-8231